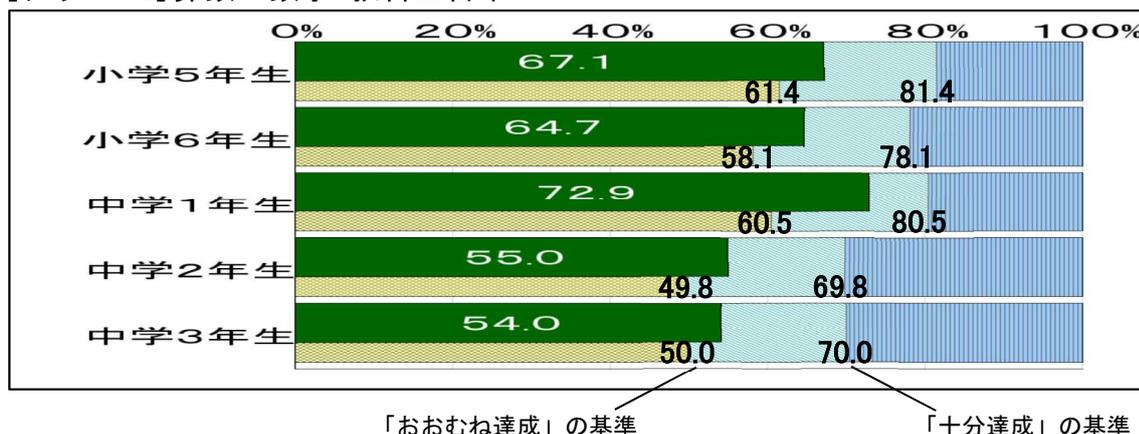


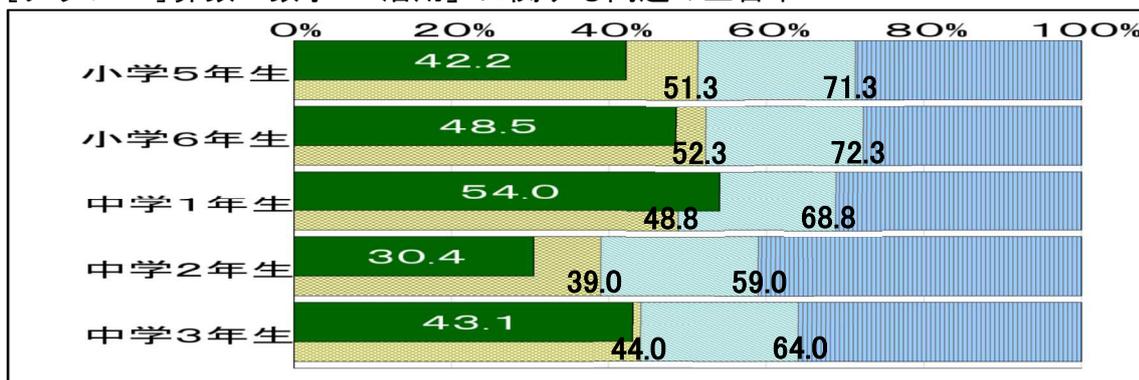
(1) 結果の概要

- 小・中学校共に、教科正答率は、全ての学年において「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ 13]
- 数量の関係を図に整理したり読み取ったりすることや、判断の理由や事柄の成り立つ理由、問題解決の方法を式や言葉で説明したりすることなどの「活用」に関する問題の正答率は、中学1年生以外の学年で「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。[グラフ 14]
- 観点別に見ると、「数量や図形についての（数学的な）技能」「数量や図形（など）についての知識・理解」については、小・中学校共に全ての学年において「おおむね達成」の基準を上回っている。しかし、「数学的な考え方（見方や考え方）」については、中学1年生以外の学年で「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。[グラフ 15～17]
- 内容・領域別に見ると、全ての内容・領域において、小学5年生と中学1年生で「おおむね達成」の基準を上回っている。「数量関係」については、小学6年生で「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。「資料の活用」については、中学2年生、中学3年生共に「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。「関数」については、中学3年生で「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。[グラフ 18～22]

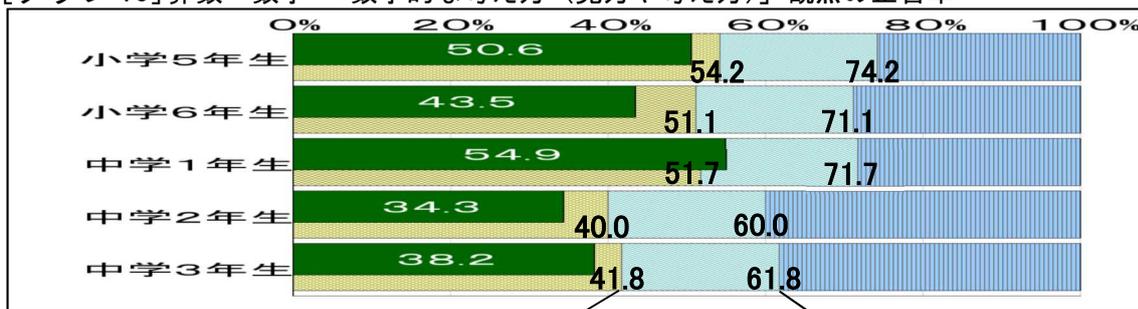
[グラフ 13]算数・数学 教科正答率



[グラフ 14]算数・数学 「活用」に関する問題の正答率



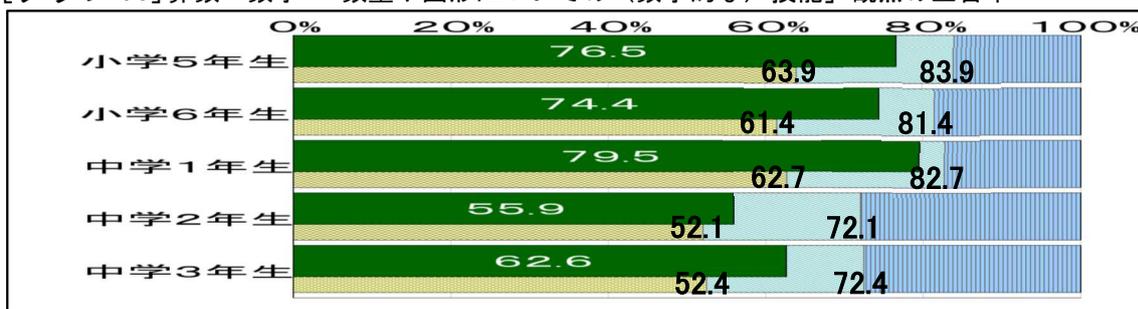
[グラフ 15] 算数・数学 「数学的な考え方（見方や考え方）」観点の正答率



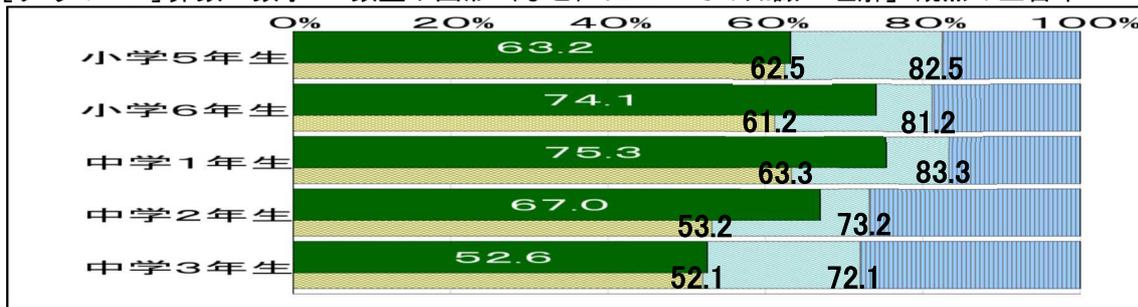
「おおむね達成」の基準

「十分達成」の基準

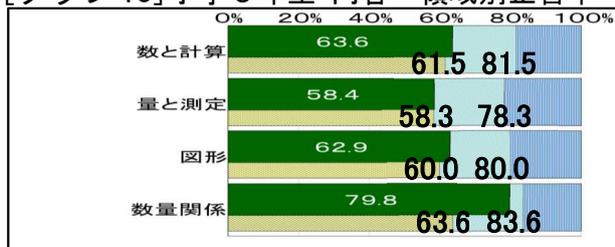
[グラフ 16] 算数・数学 「数量や図形についての（数学的な）技能」観点の正答率



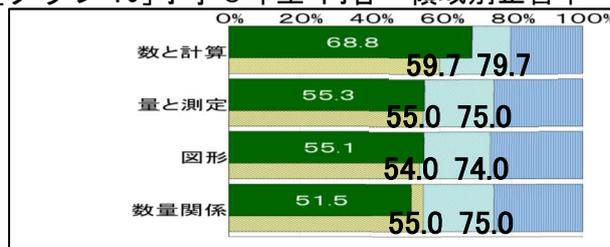
[グラフ 17] 算数・数学 「数量や図形（など）についての知識・理解」観点の正答率



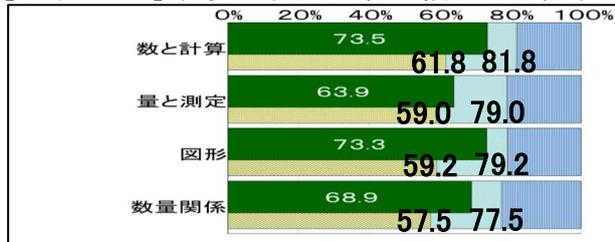
[グラフ 18] 小学5年生 内容・領域別正答率



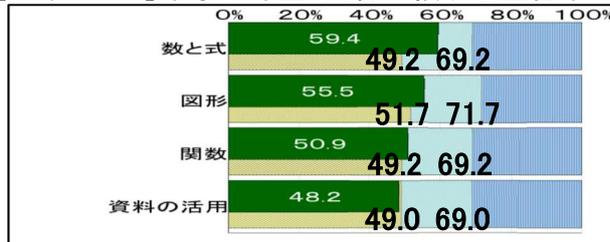
[グラフ 19] 小学6年生 内容・領域別正答率



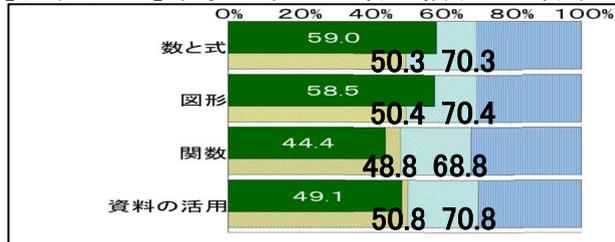
[グラフ 20] 中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ 21] 中学2年生 内容・領域別正答率



[グラフ 22] 中学3年生 内容・領域別正答率



## (2) 成果と課題及び指導改善のポイント

### 小学校算数（小学5年生、小学6年生、中学1年生）

#### 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 二つの観点から整理して、表された表から必要な情報を読み取ったり、表を用いて表したりすることに定着が見られる。  
(小学5年生[6](1)(2))
- ◇ 内容・領域「図形」の基礎的な知識や技能に定着が見られる。  
(小学6年生A問題[7]、中学1年生[5](1)(2))
- ◆ 1 数量の関係を図に整理して考えたり、図から数量の関係を読み取ったりすることに課題が見られる。  
(小学5年生[8]、小学6年生B問題[2](1))
- ◆ 2 式の意味や式に使われている数値の意味を考えることに課題が見られる。  
(小学6年生B問題[2](3)、[5](1))
- ◆ 3 示された考えを基に、別の場面や発展的な場面に適用して考え、説明することに課題が見られる。  
(小学6年生B問題[1](2)、中学1年生[12])

#### 指導改善のポイント

◆ 1 図を使いながら、示された情報を整理したり、数量の関係を把握したりする力を育成するためには、問題文から分かることを図に表したり、図に書き込んだりする活動を設定することが必要である。また、示された図から分かることを話し合う活動を設定して、示された図から、場面を的確に捉えることができるようにすることも必要である。

◆ 2 式や数値の意味を考える力を育成するためには、問題文を基に立式するだけでなく、友達が発表した式について、式の意味やそのように立式した理由などを考える活動を設定することが必要である。その際には、式に使われている数値が何を表すのかを、問題文や図などと関連付けながら確かめさせることで、式の意味を正しく解釈させることが大切である。また、何種類かの考え方がある問題を扱う際には、それぞれの式を比較させ、その意味の違いを考えさせることが大切である。

◆ 3 考えを別の場面や発展的な場面に適用して考え、説明する力を育成するためには、示された考えを基に、「数字や場面を変えても同じようなきまりが成り立つのか」「なぜそのようなきまりが成り立つのか」などを考える活動を設定することが必要である。また、考えを説明する活動を設定し、過不足なく説明されているかどうかを、言葉、図、式、操作などと関連付けながら確かめさせることが必要である。

#### ◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。「導入の段階の工夫」や「練り合いの段階の工夫」をした授業づくりについて、第1・6学年の「学習指導案」や「ワークシート」を提案しています。授業づくりに役立ててください。

## 中学校数学（中学２年生、中学３年生）

### 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 度数分布表や中央値についての理解に定着が見られる。（中学２年生 [14](#)(2)①、③）
- ◇ 不等式の意味を読み取ったり、方程式が表す関係を読み取ったりすることに定着が見られる。（中学３年生 [2](#)(3)、[3](#)(4)）
- ◆ 1  $x$ 、 $y$  の関係を式や表に表すこと、変域を求めることに課題が見られる。（中学２年生 [13](#)(1)、中学３年生A問題 [9](#)(4)、[10](#)(3)）
- ◆ 2 近似値と誤差、相対度数を求めることに課題が見られる。（中学２年生 [14](#)(1)(2)②、中学３年生A問題 [12](#)(2)、B問題 [5](#)(2)）
- ◆ 3 判断の理由や事柄が成り立つ理由、問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。（中学２年生 [5](#)(2)、中学３年生B問題 [1](#)(2)、[3](#)(3)、[6](#)(2)）

### 指導改善のポイント

◆ 1  $x$ 、 $y$  の関係を式や表に表す力を育成するためには、表、式、グラフを関連付けて考察する場面を設定することや表、式、グラフを関連付けて理解させることが大切である。表、式、グラフを関連付けて理解させるためには、与えられた情報から  $x$  と  $y$  の関係を表や式に表したり、グラフから  $x$  座標と  $y$  座標の値の組を読み取ったり、グラフを用いて変域を視覚的に捉えたりする活動を取り入れることが大切である。

◆ 2 資料の傾向を的確に捉えて判断する力を育成するためには、代表値を求めたり、資料の分布の様子を捉えたりする場面を通して、相対度数の必要性和意味の理解を深めることが必要である。また、測定値には誤差があり、真の値の近似値であることを、実感を伴って理解できるような場面を設定することも必要である。実感を伴った理解につなげるためには、観察、操作や実験などの具体的な活動を取り入れることが大切である。

◆ 3 判断の理由や事柄が成り立つ理由などを数学的な表現を用いて説明できる力を育成するためには、実生活の場面における問題を解決する活動を取り入れ、他者に説明際に、数学的な表現を用いて言葉で説明する、書いて説明するなどの学習活動を行うことが大切である。その際、必要な条件を用いて伝え合う、互いの数学的な表現のよさを確認し合う、伝え合ったことを言葉で的確にまとめることができるような指導を充実させていくことが必要である。

### ◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。数学的に説明し伝え合う活動を充実させた第1・2学年の「詳細授業展開案」と「ワークシート」を提案しています。内容・領域「関数」「図形」の授業づくりに役立ててください。

各学年の設問ごとの正答率

[表7] 小学5年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,247	67.1	2.5	81.4	61.4	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	10	63.6	4.4	81.5	61.5	
	量と測定	6	58.4	2.0	78.3	58.3	
	図形	6	62.9	4.7	80.0	60.0	
	数量関係	7	79.8	1.2	83.6	63.6	
評価の観点	①考え方	6	50.6	8.0	74.2	54.2	▼
	②技能	14	76.5	0.9	83.9	63.9	
	③知識・理解	8	63.2	1.3	82.5	62.5	
問題形式	選択式	5	66.9	0.9	82.0	62.0	
	短答式	21	70.1	1.4	82.4	62.4	
	記述式	2	36.8	18.3	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	4	42.2	10.9	71.3	51.3	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
1	(1)	1/100の位までの小数の加法の計算をすることができる	○					○				66.3	0.1	A	85	65	
1	(2)	除数が2位数で、被除数が3位数の除法の計算をすることができる	○					○				88.3	1.3	A	85	65	◎
1	(3)	乗数が2位数で、被乗数が1/10の位までの小数の乗法の計算をすることができる	○					○				64.8	0.6	A	85	65	▼
1	(4)	同分母の分数の減法の計算をすることができる	○					○				88.9	0.8	A	85	65	◎
1	(5)	加法と除法の混合した式の計算をすることができる		○				○				75.5	0.8	B	80	60	
2	(1)	小数の意味と表し方について理解している	○					○				60.1	0.6	A	85	65	▼
2	(2)	億の単位について知り、十進位取り記数法について理解している	○					○				45.3	0.8	B	80	60	▼
2	(3)	分配法則を使って計算の仕方を工夫することができる		○				○				76.8	1.8	A	85	65	
2	(4)	m <sup>2</sup> で表された面積を、cm <sup>2</sup> で表すことができる	○					○				56.4	1.1	A	85	65	▼
3	(1)	数を四捨五入して、概数で表すことができる	○					○				76.7	0.4	A	85	65	
3	(2)	条件に適した長さや面積の単位について理解している	○					○				60.7	0.3	B	80	60	
4	(1)	伴って変わる二つの数量の関係から未知数を求めることができる		○				○				90.2	1.4	A	85	65	◎
4	(2)	伴って変わる二つの数量の関係を調べ、一辺に使った棒の数を考えることができる		○				○				61.2	2.2	B	80	60	
5	(1)	直線の位置関係に着目し、平行な二つの直線を見付けることができる	○					○				67.6	0.8	B	80	60	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	① 考え方	② 技能	③ 知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
5	(2) 平行四辺形の特徴を理解している		○				○		○			80.0	1.1	A	85	65		
6	(1) 二つの観点から整理して表された表から、必要な情報を読み取ることができる			○			○		○			89.3	0.4	A	85	65	◎	
6	(2) 二つの観点から整理して、表を用いて表すことができる			○			○		○			93.6	0.6	A	85	65	◎	
7	そろばんによる数の表し方を理解している	○					○		○			72.3	2.5	A	85	65		
8	示された情報を基に、2つの道から、掛かる時間が短くなる方を選び、その時間の違いを考慮することができる	○					○		○	○		44.6	1.7	D	70	50	▼	
9	(1) 展開図を組み立ててできる立体の頂点の位置関係を理解している			○			○		○			64.0	1.0	B	80	60		
9	(2) 展開図を組み立ててできる立体の面と辺の垂直の関係を理解している			○			○		○			49.3	1.7	B	80	60	▼	
10	折れ線グラフの変化の様子を読み取ることができる			○			○		○			71.9	1.0	A	85	65		
11	ものの位置の表し方を理解している			○			○		○			74.1	2.0	A	85	65		
12	(1) 分度器を用いて180°より大きい角の大きさを求めることができる	○					○		○			64.4	1.1	B	80	60		
12	(2) 複合図形の面積を考慮することができる	○					○		○			73.5	2.2	B	80	60		
13	示された情報を基に、ボールを買うために、毎月貯金する必要がある金額を求め、その求め方を説明することができる	○					○		○	○		30.9	15.3	D	70	50	▼	
14	示された情報を基に、長針と短針の間に見える角の大きさを考えることができる	○					○		○	○		50.6	5.4	C	75	55	▼	
15	示された情報を基に、2種類の円の直径の長さから、長方形の縦の長さを求め、その求め方を説明することができる	○	○				○		○	○		42.7	21.3	D	70	50	▼	

[表8] 小学6年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,396	64.7	3.1	78.1	58.1	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	16	68.8	3.1	79.7	59.7	
	量と測定	7	55.3	4.5	75.0	55.0	
	図形	5	55.1	5.8	74.0	54.0	
	数量関係	9	51.5	4.7	75.0	55.0	▼
評価の観点	①考え方	9	43.5	7.4	71.1	51.1	▼
	②技能	7	74.4	0.9	81.4	61.4	
	③知識・理解	13	74.1	1.2	81.2	61.2	
問題形式	選択式	10	65.4	2.1	77.0	57.0	
	短答式	14	76.1	1.1	82.5	62.5	
	記述式	5	31.5	10.6	68.0	48.0	▼
活用	「活用」に関する問題	13	48.5	5.6	72.3	52.3	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
A 問題	1 (1)	除数が1より小さいとき、商が被除数より大きくなることを理解している	○				○		○			63.9	0.7	B	80	60		
	1 (2)	除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないことを理解している	○				○		○			72.0	0.2	A	85	65		
	1 (3)	除法における計算の確かめの方法を理解している	○				○		○			84.5	0.4	A	85	65		
	2 (1)	繰り下がりのある減法の計算をすることができる	○				○		○			90.7	0.1	A	85	65	◎	
	2 (2)	末尾の位のそろっていない小数の加法の計算をすることができる	○				○		○			77.6	0.2	A	85	65		
	2 (3)	小数の除法の計算をすることができる	○				○		○			81.0	0.4	A	85	65		
	2 (4)	乗数が整数である場合の分数の乗法の計算をし、約分することができる	○				○		○			89.6	0.6	A	85	65	◎	
	3 (1)	不等号を理解している	○				○		○			96.6	0.5	A	85	65	◎	
3 (2)	数の大小関係を理解している	○				○		○			74.7	0.2	A	85	65			
4	単位量当たりの大きさの求め方を理解している	○				○		○			72.8	2.3	B	80	60			
5	三角形の底辺と高さの関係について理解している	○				○		○			82.7	0.6	B	80	60	◎		
6	図形の構成要素に着目して、図形を構成することができる	○				○		○			78.1	0.7	B	80	60			
7	直方体における面と面の位置関係を理解している	○				○		○			80.5	1.6	B	80	60	◎		
8	全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合の意味について理解している	○				○		○			70.8	1.4	B	80	60			

設問別集計結果

B  
問  
題

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	① 考え方	② 技能	③ 知識・理解	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
9	(1)	示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式に表すことができる	○		○						○	81.6	2.5	A	85	65	
9	(2)	1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解している			○						○	48.1	3.4	B	80	60	▼
1	(1)	示された条件を基にほかの正方形について検討し、同じきまりが成り立つかを調べることができる	○	○							○	91.8	0.2	B	80	60	◎
1	(2)	示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述できる		○							○	47.7	2.0	C	75	55	▼
2	(1)	ハードルの数とインターバルの数の関係を式に表し、4台目のハードルの位置を求めることができる			○						○	54.2	1.9	C	75	55	▼
2	(2)	示された式に数値を当てはめて、目標のタイムを求めることができる	○		○						○	49.3	2.8	C	75	55	▼
2	(3)	示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述できる	○								○	26.4	13.2	E	65	45	▼
3	(1)	乗法や除法の式の意味を解釈することができる	○								○	60.5	0.6	C	75	55	
3	(2)	縦にかくことができる正方形の数を求め、2・4個の正方形をかくことができる理由を記述できる	○								○	41.9	11.2	D	70	50	▼
3	(3)	正方形に内接する円の半径について理解している			○						○	74.5	1.7	C	75	55	
4	(1)	単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定することができる	○	○							○	49.4	1.7	C	75	55	▼
4	(2)	示された事柄について、二つの表を基に読み取ることができない事柄を特定することができる			○						○	68.7	2.3	C	75	55	
4	(3)	グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述できる			○						○	23.4	10.7	E	65	45	▼
5	(1)	示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述できる	○	○	○						○	17.8	15.7	E	65	45	▼
5	(2)	図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断することができる	○	○							○	24.5	9.3	D	70	50	▼

[表9] 中学1年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,401	72.9	1.8	80.5	60.5	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	11	73.5	1.5	81.8	61.8	
	量と測定	5	63.9	4.1	79.0	59.0	
	図形	6	73.3	2.5	79.2	59.2	
	数量関係	8	68.9	2.0	77.5	57.5	
評価の観点	①考え方	6	54.9	4.5	71.7	51.7	
	②技能	13	79.5	1.5	82.7	62.7	
	③知識・理解	9	75.3	0.6	83.3	63.3	
問題形式	選択式	7	69.6	0.7	82.1	62.1	
	短答式	19	77.6	1.5	81.3	61.3	
	記述式	2	39.5	8.5	67.5	47.5	▼
活用	「活用」に関する問題	4	54.0	5.7	68.8	48.8	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
1	(1) 被乗数、乗数が共に真分数の乗法の計算ができる	○				○			○			94.6	0.7	A	85	65	◎
1	(2) 被乗数が帯分数、乗数が真分数の乗法の計算ができる	○				○			○			92.4	0.9	A	85	65	◎
1	(3) 被除数、除数が共に真分数の除法の計算ができる	○				○			○			93.1	0.9	A	85	65	◎
1	(4) 除数が小数、被除数が分数の除法の計算ができる	○				○			○			78.7	1.8	B	80	60	
2	(1) 数量の関係を数直線に表すことができる	○				○			○			75.1	2.9	B	80	60	
2	(2) 1に当たる大きさを求めるために、除法が用いられることを理解している	○					○		○			51.0	1.0	B	80	60	▼
3	(1) 除数が分数や小数である除法において、被除数と商の大きさとの関係について考えることができる	○				○			○			61.2	0.6	B	80	60	
3	(2) 速さと時間から長さを求めることができる	○				○			○			87.4	1.4	A	85	65	◎
3	(3) m <sup>3</sup> で表された体積を、cm <sup>3</sup> で表すことができる	○				○			○			53.8	1.3	B	80	60	▼
3	(4) 比と全体の量を基に、部分の量を考えることができる		○			○			○			52.2	3.5	C	75	55	▼
3	(5) xやyを用いて数量の関係を式に表すことができる		○			○			○			87.7	0.6	B	80	60	◎
4	(1) 柱状グラフにおける資料の分布の様子を理解している		○				○		○			69.1	0.5	A	85	65	
4	(2) 柱状グラフの特徴を理解している		○				○		○			66.0	0.3	A	85	65	
5	(1) 点対称な図形における対応する点の位置関係について理解している	○				○			○			97.6	0.3	A	85	65	◎

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	① 考え方	② 技能	③ 知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
5	(2)	点対称な図形における対応する辺の位置関係について理解している		○			○			○		88.8	0.3	A	85	65	◎	
6	(1)	線対称な図形の対称の軸について理解している		○			○			○		83.5	0.4	B	80	60	◎	
6	(2)	線対称な図形について理解している		○			○			○		90.7	0.4	B	80	60	◎	
7	(1)	円周の長さを、半径の長さをを用いて求めることができる		○			○			○		49.0	1.3	B	80	60	▼	
7	(2)	三角形の面積を求めることができる	○				○			○		55.2	4.2	B	80	60	▼	
7	(3)	落ちや重なりがないように、順序よく調べることができる			○		○			○		90.4	0.6	A	85	65	◎	
7	(4)	直方体の体積を求めることができる	○				○			○		92.9	1.0	A	85	65	◎	
8		示された情報を基に、商品をより安く買う方法を判断し、その理由を説明することができる	○		○		○			○	○	48.7	4.6	D	70	50	▼	
9	(1)	分数の大小について理解している	○				○			○		49.5	1.0	A	85	65	▼	
9	(2)	数直線から、1/100の位までの小数を読み取ることができる	○				○			○		83.6	1.4	A	85	65		
9	(3)	以上、未満の意味と用語について理解している	○				○			○		81.2	1.0	A	85	65		
10		示された例を基に、二つの数量の関係を文字を用いた式で表す方法を考えることができる			○		○			○	○	75.7	2.3	D	70	50	◎	
11		示された条件を基に、荷物を送るための送料を、複数の資料を関連付けて考えることができる			○		○			○	○	61.2	3.5	D	70	50		
12		長方形の面積を2等分する考えを基に、二つの図形の面積が等しくなる理由を考え、説明することができる	○	○			○			○	○	30.3	12.4	E	65	45	▼	

[表10] 中学2年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,452	55.0	9.6	69.8	49.8	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と式	12	59.4	8.7	69.2	49.2	
	図形	9	55.5	8.8	71.7	51.7	
	関数	6	50.9	9.9	69.2	49.2	
	資料の活用	5	48.2	12.7	69.0	49.0	▼
評価の観点	①見方や考え方	7	34.3	14.7	60.0	40.0	▼
	②技能	14	55.9	10.0	72.1	52.1	
	③知識・理解	11	67.0	5.8	73.2	53.2	
問題形式	選択式	7	60.2	3.8	70.7	50.7	
	短答式	22	55.4	10.3	71.1	51.1	
	記述式	3	40.0	17.6	58.3	38.3	
活用	「活用」に関する問題	5	30.4	17.3	59.0	39.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
1	(1)	正の数・負の数の減法の計算をすることができる	○					○				85.9	0.4	A	75	55	◎
1	(2)	四則を含む正の数と負の数の計算をすることができる	○					○				82.5	1.0	A	75	55	◎
1	(3)	分配法則を用いた文字の式の計算をすることができる	○					○				48.8	5.1	B	70	50	▼
2	(1)	絶対値の意味について理解している	○					○				73.2	7.5	A	75	55	
2	(2)	文字式に数を代入して式の値を求めることができる	○					○				62.4	5.8	B	70	50	
2	(3)①	一元一次方程式を解くことができる	○					○				74.8	6.4	A	75	55	
2	(3)②	分数の一元一次方程式を解くことができる	○					○				31.7	18.2	B	70	50	▼
2	(3)③	比例式を解くことができる	○					○				83.6	6.0	A	75	55	◎
3		文字を用いた不等式から、数量の大小関係を読み取り、説明することができる	○					○		○		52.3	10.0	D	60	40	
4		具体的な事象の中の数量の関係を捉え、方程式をつくることができる	○					○		○		20.7	15.6	D	60	40	▼
5	(1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○					○				62.6	3.2	B	70	50	
5	(2)	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	○					○		○		34.8	25.8	E	55	35	▼
6	(1)	扇形の面積がその中心角の大きさに比例することに着目し、扇形の面積を求めることができる	○					○				35.0	23.8	B	70	50	▼
6	(2)①	空間における平面と直線の位置関係について理解している(垂直)	○					○				70.3	2.3	A	75	55	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
6	(2)②	空間における直線と直線の位置関係について理解している（ねじれの位置）	○				○		○			73.9	2.5	A	75	55	
6	(3)	展開図がどのような空間図形を表しているかを読み取ることができる	○				○		○			57.0	0.9	A	75	55	
6	(4)	長方形の一边を軸とする回転によって円柱が構成されることを理解している	○				○		○			89.4	1.6	A	75	55	◎
7		平行移動について理解している	○				○		○			81.1	3.0	A	75	55	◎
8		垂直二等分線の作図の方法を用いて、円の直径をひくことができる	○				○		○			30.2	23.5	B	70	50	▼
9		点が動いたあとの長さを的確に捉え、扇形の弧の長さの求め方を利用して考えることができる	○				○		○	○		11.3	18.0	D	60	40	▼
10		底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解している	○				○		○			51.3	3.3	B	70	50	
11	(1)	点の座標の表し方を理解している	○				○		○			83.4	3.4	A	75	55	◎
11	(2)	比例の関係を表すグラフの特徴について理解している	○				○		○			40.0	3.4	B	70	50	▼
12	(1)	与えられた比例の式について、そのグラフ上の点のx座標を基に、y座標を求めることができる	○				○		○			42.7	15.9	A	75	55	▼
12	(2)	具体的な事象から二つの数量の関係を捉え、変化や対応の様子を予想することができる	○				○		○			56.8	8.9	C	65	45	
13	(1)	与えられた情報を基に、xとyの関係を表に表すことができる	○				○		○			49.5	10.4	B	70	50	▼
13	(2)	与えられた情報を基に、xとyの関係が反比例であることを説明することができる	○				○		○	○		32.9	17.1	D	60	40	▼
14	(1)	近似値の意味について理解している	○				○		○			23.8	21.8	B	70	50	▼
14	(2)①	度数分布表について理解している	○				○		○			78.8	8.4	A	75	55	◎
14	(2)②	相対度数を求めることができる	○				○		○			35.8	18.9	B	70	50	▼
14	(2)③	中央値について理解している	○				○		○			71.8	6.6	B	70	50	◎
15		資料の傾向を捉えることができる	○				○		○			31.0	7.7	D	60	40	▼

[表11] 中学3年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,677	54.0	9.8	70.0	50.0	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と式	18	59.0	8.6	70.3	50.3	
	図形	14	58.5	8.1	70.4	50.4	
	関数	13	44.4	11.5	68.8	48.8	▼
	資料の活用	6	49.1	13.8	70.8	50.8	▼
評価の観点	①見方や考え方	11	38.2	18.9	61.8	41.8	▼
	②技能	23	62.6	9.0	72.4	52.4	
	③知識・理解	17	52.6	4.9	72.1	52.1	
問題形式	選択式	15	52.0	1.4	70.7	50.7	
	短答式	29	59.9	10.3	72.2	52.2	
	記述式	7	34.0	25.7	59.3	39.3	▼
活用	「活用」に関する問題	15	43.1	17.7	64.0	44.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

A  
問  
題

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	(1) 分数と小数の乗法の計算ができる	○				○			○			54.2	5.3	A	75	55	▼	
1	(2) 自然数の意味を理解している	○					○		○			38.4	0.2	A	75	55	▼	
1	(3) 正の数と負の数の加法の計算ができる	○				○			○			90.8	0.7	A	75	55	◎	
1	(4) ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されることを理解している	○					○		○			66.8	0.3	B	70	50		
2	(1) 数量の関係を文字式に表すことができる	○				○			○			30.9	13.5	B	70	50	▼	
2	(2) 整式の加法と減法の計算ができる	○				○			○			83.6	2.3	A	75	55	◎	
2	(3) 不等式の意味を読み取ることができる	○				○			○			77.1	0.3	A	75	55	◎	
2	(4) 具体的な場面で数量の関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形できる	○				○			○			64.4	6.9	A	75	55		
3	(1) 簡単な一元一次方程式を解くことができる	○				○			○			68.9	5.6	A	75	55		
3	(2) 一元一次方程式の解の意味を理解している	○					○		○			43.3	0.5	B	70	50	▼	
3	(3) 具体的な場面における数量の関係を捉え、比例式をつくることができる	○				○			○			52.3	16.0	B	70	50		
3	(4) 2つの等号で結ばれている方程式が表す関係を読み取り、2つの二元一次方程式で表すことができる	○				○			○			88.9	5.7	B	70	50	◎	
4	(1) 垂線の作図の方法について理解している	○					○		○			28.3	0.9	B	70	50	▼	
4	(2) 対称移動した図形をかくことができる	○				○			○			66.4	2.5	A	75	55		

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
5	(1)		○				○		○			74.4	2.2	A	75	55		
5	(2)		○				○		○			48.8	6.2	A	75	55	▼	
5	(3)		○				○		○			78.9	0.6	A	75	55	◎	
5	(4)		○				○		○			51.9	11.3	B	70	50		
6	(1)		○				○		○			71.7	5.0	B	70	50	◎	
6	(2)		○				○		○			65.9	0.9	B	70	50		
7	(1)		○				○		○			66.4	0.8	B	70	50		
7	(2)		○				○		○			70.9	12.6	A	75	55		
7	(3)		○				○		○			73.2	9.0	A	75	55		
8			○				○		○			57.2	1.4	B	70	50		
9	(1)		○				○		○			87.0	3.6	A	75	55	◎	
9	(2)		○				○		○			37.6	11.7	B	70	50	▼	
9	(3)		○				○		○			38.1	1.7	B	70	50	▼	
9	(4)		○				○		○			29.4	14.5	B	70	50	▼	
10	(1)		○				○		○			58.8	2.0	B	70	50		
10	(2)		○				○		○			47.4	25.5	A	75	55	▼	
10	(3)		○				○		○			32.6	19.8	B	70	50	▼	
11			○				○		○			50.2	14.4	B	70	50		
12	(1)		○				○		○			49.3	15.7	A	75	55	▼	
12	(2)		○				○		○			28.3	3.1	B	70	50	▼	
13	(1)		○				○		○			57.4	2.5	A	75	55		
13	(2)		○				○		○			77.6	9.2	A	75	55	◎	
B 問題	1	(1)	○				○		○	○		79.7	1.0	B	70	50	◎	
	1	(2)	○				○		○	○		27.8	20.3	C	65	45	▼	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県 正 答 率	県 無 解 答 率	期待 正 答 率			到達 状 況
		数 と 式	図 形	関 数	資 料 の 活 用	① 見 方 や 考 え 方	② 技 能	③ 知 識 ・ 理 解	選 択 式	短 答 式				記 述 式	問 題 分 類	十 分 達 成	
1	(3)	○				○				○	○	59.4	7.5	D	60	40	
2	(1)		○				○			○	○	54.5	9.3	B	70	50	
2	(2)		○			○				○	○	24.5	21.2	D	60	40	▼
3	(1)		○				○			○	○	64.7	3.6	B	70	50	
3	(2)		○			○			○	○	○	27.6	0.9	C	65	45	▼
3	(3)		○			○				○	○	25.3	21.6	D	60	40	▼
4	(1)	○				○				○	○	32.5	26.6	D	60	40	▼
4	(2)	○				○				○	○	32.7	34.0	E	55	35	▼
5	(1)		○			○				○	○	48.4	21.4	D	60	40	
5	(2)		○				○		○	○	○	33.2	30.8	B	70	50	▼
6	(1)	○					○			○	○	74.1	14.7	B	70	50	◎
6	(2)	○				○				○	○	14.9	47.6	D	60	40	▼
6	(3)	○				○			○	○	○	47.2	6.0	C	65	45	

#### (4) 地域別の正答率

- 県内5地域の算数・数学の学年別平均正答率の対県比は[表 12]のとおりで、依然として地域間の学力差が見られる状況にあり、5学年中3学年で、昨年度と比べて地域差が拡大している。
- 学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況は、5地域とも、小・中学校全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ 23]

[表 12] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
小学校5年生	算数	H28	1.01	1.00	0.97	1.01	1.04	縮 0.07
		H27	1.00	1.02	0.96	1.01	1.05	0.09
小学校6年生	算数	H28	1.01	1.02	0.96	1.00	1.00	拡 0.06
		H27	0.99	1.01	0.98	1.01	1.00	0.03
中学校1年生	数学	H28	1.02	1.02	0.97	0.96	1.00	拡 0.06
		H27	1.00	1.03	0.99	0.99	0.98	0.05
中学校2年生	数学	H28	1.02	1.02	0.92	0.97	1.09	▲ 拡 0.17
		H27	1.02	1.03	0.91	1.02	0.98	▲ 0.12
中学校3年生	数学	H28	1.02	1.00	0.94	1.02	0.99	縮 0.08
		H27	1.03	1.01	0.96	1.02	0.92	▲ 0.11

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

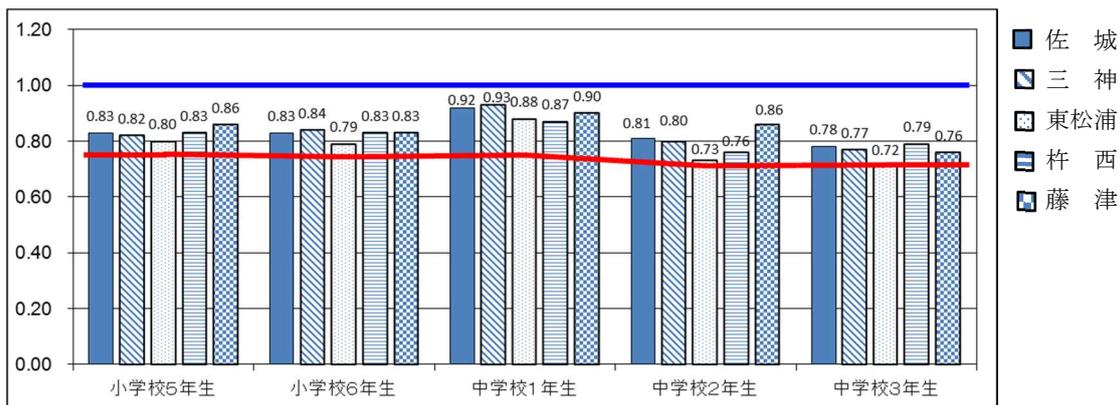
※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成27年度調査より地域差が拡大した教科を、「縮」は縮小した教科を示す

[グラフ 23] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の正答率を1.00として算出



※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町